



奥水大和

合同会社 YYC ソリューション / 中京大学

Hiroyasu KOSHIMIZU [正会員] koshimizu@mui.biglobe.ne.jp

1975 年名大院博了 (工博)。同助手, 名古屋工研, 中京大学を経て, 現在, 合同会社 YYC ソリューション代表, 中京大学名誉教授, 理研客員研究員, IPSJ フェロー, IEEE フェロー, IEICE 終身会員, JFACE 理事, SSII 顧問, IAIP 特別委員・顧問。

[No.96]

情報処理学会はフロンティア —物質科学と記憶科学の舞台—



「情報処理学会」という名称は, 情報, これにまつわる記録と通信, それを処理する数学や数理やプログラム, 人工知能, さらにそれらを実装するコンピュータとカメラなどの機械と電子機器, そして……など広範な課題をカバーするのだ, と深読みすることができる。ここに隠れている宣言は, 炊いて煮詰めて盛り付けると, どうしても近代における歴史的な名著『物質と記憶』(HB/H. Bergson, 1859-1941) のいう心身二元の科学技術問題が浮かび上がってくるのではないだろうか^{☆1}。

この学会名称は, 情報という非物質なできごとに関する科学技術からも, コンピュータ機械という物質に関する科学技術からも逃げません, と言い放っている。あえてこのように口にするには, 覚悟が必要であるが, 世界でただ 1 つ, 本会にだけにその骨太な資格あり, そのフロンティアとして主役を張らなければならない。どこにでも転がっている身近な疑問の中にもその問題の核心が潜んでいる。たとえば, 「シャバーニは, なぜイケメン?」に本会はどう答えるか? 写真 1, 2 をご覧ください。徹底した顔形状の物質的センシングは, 優しい, イケメン, 似てる, ... という記憶のセンシングに至れるのか? 至り得ないのか? ここが課題のカッティン

☆1 本稿のサブタイトルは, 本書のタイトルになぞらえたものである。

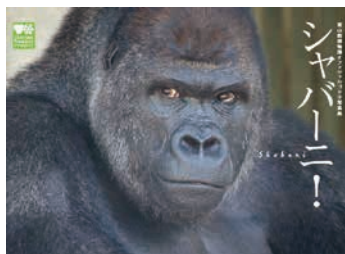
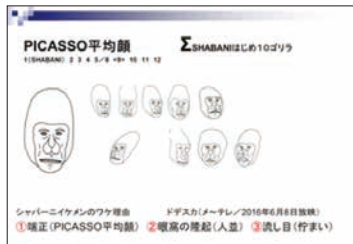


写真 1 シャバーニ
(出典: 東山動植物園 監修: 東山動植物園オフィシャルゴリラ写真集 シャバーニ!, 扶桑社)



シャバーニの顔



ゴリラの平均顔

グエッジである。そして上述した HB は, 断じて物質計測は記憶センシングには到達しないという仮説に覚悟を決めて, 記憶現象, 非物質現象にはそのための固有のセンシング法も研究法も作りなさい, 物質還元的な道は選ぶべきでないと説いている。苦し紛れに, 顔学における非分析的な常套手段に訴えて, 「平均ゴリラ顔」を導入したら, シャバーニはこの平均顔に瓜二つであった。ゴリラ界で際立って端正な男子であったのだった。

ところで, 筆者の中での研究法的希望の一条の光は, 実は, 深層学習の思想にあると仮説している。S. Freud の心理研究法, センシング法よろしく, 一切のデータは言葉 (発話も記述も音声も) や表情 (画像, 映像) のみならず気付かず溜まる生体指標群のログであり, それらは DL ネットワークにそのまま投入でき, 日々これは更新に更新を重ねることができるからである。学習したネットワークの自己説明が掴みにくいところまで含めて, ほぼこれは, 生身の人間の日常の知的営みを徹底させているだけであるところも, このほか好ましい性質を備えた研究法ではないか, と妄想を膨らませたい。実は筆者は, 間もなく創立四半世紀を迎える「日本顔学会」という学会にかかわる中で, このような考えを温めるきっかけがあった¹⁾。そして, この考えを反芻するほどに, 本会はもっと典型的に, 物質科学と記憶科学を股にかけた本質的学術課題を共有しているではないか, この確信は深まるばかりである。

参考文献

- 1) 奥水大和: 『等身大の科学』顔学を寸考, 日本顔学会誌, Vol.18, No.2 (2018 年 11 月号)。

(2018 年 10 月 7 日受付)

写真 2 シャバーニはイケメン
メーテレ “シャバーニ” 2016 年 6 月 8 日 (水) の午前 7 時頃 特集コーナー「全カリサーチ」顔の研究 コンピュータ似顔絵 (提供: メーテレ)